

「大阪版カーボンフットプリント」で
農産物のCO₂を見える化！

全国に先駆けた取組展開中

日本の年平均気温は長期的に上昇しており、令和6年は、統計開始以降、最も高い値を記録。農林水産業は気候変動の影響を受けやすく、高温による農産物の品質低下等が既に発生している。持続可能な食料システムの構築は急務とされ、農分野でも国をあげて脱炭素への取組に力が入られている。

大阪府では、脱炭素社会の実現を目指し、消費者の行動変容を促進するため、身近な「食」に着目し、大阪府内で生産される農産物のCO₂削減率の見える化を行う「大阪版カーボンフットプリント(CFP)」の取組を進めている。

農薬・化学肥料・燃料等の削減や、地産地消による輸送距離の短縮といった取組によるCO₂削減効果を数値で算出し、ラベルで商品に表示することで脱炭素への貢献度をわかりやすく示している。

府は、消費者による環境にやさしい商品の購入促進だけでなく、生産者や事業者による大阪版CFPの算定・表示拡大を図ることで、大阪産(もん)や有機

農業との相乗的な普及を目指している。

農産物の温室効果ガスが見える化の取組は農林水産省でも「みえるらべる」の名称で進められており、大阪版CFPの算定も、国の「農産物の温室効果ガス簡易算定シート」を使用した算定結果を利用している。表は、府と国の制度の主な特徴をまとめたもの。

府は大阪版CFPの削減率を算出しラベルデータを自動生成するツールをWeb上で公開。登録や利用料は不要である。利用者からは、「環境に貢献できていることが目に見えて分かり嬉しい」という声も多数。消費者への啓発だけでなく、生産者、事業者等が自身の商品の新たな価値に気づききっかけにもなっている。

カーボンフットプリントを活用した施策は他都道府県でも事例が少なく、全国に先駆けた取組。令和6年6月からは、府内全域でのCFP表示に向け、「おおさかカーボンフットプリントプロジェクト」を始動。小売事業者やCO₂排出量の見え

る化に取り組む事業者等と連携し、スーパーや農産物直売所等の店舗、イベント等、府内各地でCFPを表示した商品の販売や普及啓発を展開している。(大阪府みどり公社提供)

○大阪版カーボンフット
プリントのWeb算定
ツールはこちら



○「おおさかカーボンフット
プリントプロジェクト」
参画事業者募集中



【本事業に関する問合先(大阪府委託事業者)】

大阪府地球温暖化防止活動推進センター(一般財団法人大阪府みどり公社)

TEL: 06-6266-1271 E-mail:center@osaka-midori.jp

農産物の温室効果ガス排出量見える化にかかる制度の特徴

	大阪府・「大阪版カーボンフットプリント(CFP)」	農林水産省・「みえるらべる」
目的	府内産農産物の地産地消やエコ農産物による温室効果ガス排出量の削減効果を見える化し、取引先や消費者による環境にやさしい商品の選択を促進する	温室効果ガス排出量の削減や生物多様性保全の努力・工夫が見える化することにより、生産時の環境負荷低減の取組や効果を取引先や消費者にアピールする
算定対象	大阪府内で生産・販売される農産物23品目(令和7年8月時点)	国内で生産される農産物24品目(令和7年8月時点)
評価対象となる取組	【生産段階】農薬・化学肥料等の低減 【流通段階】地産地消による輸送距離の削減	【生産段階】農薬・化学肥料等の低減、バイオ炭の施用等
主な算定情報の入力方式	Webツール上で、作物名等の基本情報、生産・流通時の該当する取組を選択	・Excelの算定シート上で、作物名等の基本情報、生産時の取組内容、資材等の投入量等を入力 ・連携している営農アプリからも入力可能
算定に係る登録	不要	必要(連携している営農アプリを利用する場合は不要)
算定に係る費用	無料	
表示方法 ラベルイメージ	対象農産物の生産・流通に伴う温室効果ガス排出量と標準的な方法で栽培され、大阪府内へ流通された場合を想定した温室効果ガス排出量から算定した削減量をCO ₂ に換算した「CO ₂ 削減率」を%単位で表示 	対象農産物生産に伴う温室効果ガス排出量と標準排出量から算定した削減貢献率が5%以上で星1つ、10%以上で星2つ、20%以上で星3つを温室効果ガス削減貢献の等級ラベルとして表示 